



叔母の死に思う 健康診断の大切さ

伊勢亀文字さん(吉川・主婦・51歳)

月日のたつのは早いもので、叔母が亡くなってから、もう三カ月が過ぎました。私は小さいときから叔母にかわいがってもらいました。何かとお世話にもなり、母親のような人でもありました。

叔母は一昨年の六月、市の健康診断で、肺に異常があるので、病院でよく調べてもらうよう言われました。そこで、新潟市民病院で診察してもらい、手術が必要ということで入院。肺の手術を受けました。術後の経過もよく、一時は退院したものの、再三、入院を繰り返すことになりました。

後で聞いたのですが、実は肺がんだったのです。既に病気が進み、もう転移していたのです。特に脳と骨盤がひどかったようです。そのため腰がきかず、一人で歩くことも立つこともできなくなりました。叔母は「二年前のレントゲン検査では異常がなかったのに、一年検査を休ん

で今回行ったら、もう悪くなっていた」と言っていました。そしてみんなに「健康診断を怠けず、早く病気を見つけ、早く治療して体を大事にしてほしい」と言っていました。

入院の際、親戚はじめ、友人知人の皆さんからお見舞いをいただきました。皆さんの温かい励ましの言葉に、叔母は「人様の好意はお金では買えない尊いものだ」と言っていて喜んでいた。また、家へ帰っても近所の人が見てくださり、何かとお世話してくださりました。特に友人の長井さんは毎日のように来て、体をふいたり下のお世話までしてくださりました。その姉妹のようで本当に頭の下がる思いでした。「遠くの親戚より近くの他人」と言いますが、まさにその通りだと思いました。皆さんの温かい看護のかけもなく、病気には勝てず、八月六日、六十七歳でこの世を去りました。叔母さん、家族や私たちを見守り、安らかに眠りください。

市民談話室

原稿募集

1月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係 ☎373-2111(☎333)です。



血管教室を受講して 閉講式まで頑張ります

渡辺ムツさん(鬼吉川・主婦・59歳)

私は今回、市の成人病対策の一つである「いきいき血管教室」があることを知り、思い切って受講することにしました。考えてみると、育児も終わり数十年、ペンを取る機会など全くない忙しい毎日でした。このような生活の中で、嫁の勧めもあり、「自分の体は自分で守るよりほかに」と考え、思い切って申し込みました。

保健センターへ行って先生の話を聞きながら「来てよかったな」と思うことがばかりでした。

市民文芸

俳句

間引菜の一束づつをゆるく結ぶ
成沢 素明
みささきの森から暮るる秋の村
豊木サダ子
夜なべ妻無口の舌とあて無口
猪股 南魚
蒸焼いたる深まりし刈田かな
安沢 飛浪
エプロンを取りて親しむ秋燈下
堀内ナナ子
鶴首に芒一本月を待つ
山田 孝
村の名と同じ名の川水澄める
五十嵐寛吾
分校の庭に初干すダムの村
知野信一郎
ポケットに旅の名残りの檀の実
木村 トリ
樅の実を拾ひし寺の恋しけれ
山口 初野
(以上大風会)
孫の手を借りてコンパイン見にい
玉木 長吉

短歌

文化の日神に供える菊造り
人目集まり競技花にあり
長谷川久二
晩秋の信濃路訪えば松本城
黒き天寺の夕映えに浮く
中村 京
たそがれの湯の街歩けば軒並に



大正生まれの俺たちは

江平久恵市さん(菱刈・無職・72歳)

一、大正生まれの俺たちは明治の両親に育てられ粗食に耐えて鍛えられ忠君愛国そのままに祖国のために働いて名譽の戦死靖国の神と祭られ覚悟せり

二、大正生まれの俺たちは止むに止まれぬ戦争で男女の恋も語られず各前線の尖兵は皆明治と大正の俺たちだ終戦を迎えたその後は食糧増産に貢献し強権発動に悩まされこれも明治と大正の俺たちだ

三、大正生まれの俺たちは戦後日本の再建と政治経済教育とただがむしやりに五十年

四、何もかも運と調子と作戦で勝つも負けるもその時の運大正が世界大戦の主役なら戦後復興それも大正だ激動の昭和を過ぎて平成に忘れてならぬ靖国の神七十歳過ぎて銀杯一つ

五、今は明治大正昭和とチームを組み年を忘れてゲートボールに

六、タッチされ喜ぶ人とフレンドリーこの世の世界健康と仲間づくりとボケ防止

七、力み過ぎるな血圧上がる

川柳

月岡鐘頭の白き湯気立つ
小出熊四郎
仏前にお経上げつつ胸うたる
意味知らざれど弥陀よ知りませ
小出よしの
日給につらい週休二日制
佐藤トミノ
さざ波も立たない五分の歩み寄り
佐藤 ヨキ
台風にも手を焼く巖島
高橋祐四雄
カルダンのハンカチ敷いてくれた女
竹石 甚五
病む友の眼差し避けていたる見舞い
田中 成子
N T T だんだん便り遠くさせ
田村 恒夫
支持率が揃い今夜は鍋にする
中村 尚治
誰も来ぬこんな日も好き毛糸編む
西条 ムラ
手品師はまずハンカチで小手調べ
早川 英男
愚痴ばかりこぼし遺影に諭される
本間 雪江
ハンカチの白に偽りなどはない
山岡 フミ
波風で変わる夫婦の設計図
吉川 彰
波のない暮らしに詠きた日の情眼
今井 七郎
波風を連れて生きている余生
織田 福治
胸元が波打つ乙女の心電図
織田 セツ
開発の波が緑を丸坊主
後藤マサノ

音を楽しむ いつも心の中に音楽が

山崎ツヤ子さん(みの口・無職・62歳)

幼いころ、母に連れられて、新潟の親戚へ遊びに行くのがとても楽しみでした。行くたびに叔父さんが、小さなピアノで私の好きな曲を幾つか弾いてくださいました。家に帰ってから、母におもちゃのピアノをねだりました。勉強がおそろそかに言っていると、買ってもらえませんでした。

子供のころの影響で、音楽はいつも心の中にあつたようです。四季折々の虫の音、鳥の声、生活のリズムにも音楽があり、いろいろな夢が浮かんできます。その夢を大切に、長年の間俳句も作っていました。それから作詞、作曲と遍歴しました。NHKの「あなたのメロデー」に採用されたことは、すてきな思い出となって残っています。願ひて思うのですが、私の音楽好きはただひたすらに「音を楽しむ」朝な夕なを繰り返してございます。

白根哀歌 消えゆく美田

安沢義昭さん(編湯・農業・44歳)

俺がまだ小さいころ、白根は小さな田舎町だった。国道が広い白根平野に一本の白糸のように敷かれ、その端に幾多の家が立ち並んだ。目まぐるしい世相の中に町は引きずり込まれ、昔の面影は一步一歩忘れ去られ、壊されていった。豊かな田舎が、静かな町だったのに、田畑は政府の行う「水田農業確立対策」いわゆる減反により、何食

わぬ顔で埋め立てられ、宅地化の犠牲になった。農家の一人として寂しいことである。

人口も増加し、工場もたくさんでき、目まぐるしい発展をしたかのよう思いがちだ。しかし人々は果たして喜んでるだろうか。「滅びゆく米王国白根」何て寂しい響きの言葉であろうか。